

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	事業所名	あすならホーム桜井 看護小規模多機能ケアホーム
所在地	〒633-0062 奈良県桜井市栗殿800		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・10の基本ケアを基にした介護を実施しており、介護方法がきちんと確立されています。
- ・ケアの考え方として、自身の力を利用し自立を促す支援を心掛けています。
- ・多機能サービスの特徴である訪問、通い、泊り、看護のサービスを柔軟に提供します。
- ・看取りまで関わる事ができます。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2024 年 11 月 20 日	従業者等自己評価 実施人数	(12) 人 ※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2025 年 1 月 17 日	出席人数（合計）	(8) 人 ※自事業所職員を含む
出席者（内訳）	☐ 自事業所職員（3人） ☐ 市町村職員（__人） ☐ 地域包括支援センター職員（1人） ☐ 地域住民の代表者（2人） ☐ 利用者（____人） ☐ 利用者の家族（3人） ☐ 知見を有する者（____人） ☐ その他（____人）		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
Ⅰ．事業運営の評価 (評価項目 1～10)		多職種連携の情報共有に課題がある。介護ソフト、書面、口頭伝達を徹底し情報共有を強化する。	口頭や書面など多様な方法に加え情報共有を ICT 化し、連携強化を図っている。	日々の経過、伝達は ICT ツールを使用して共有できるようになった。 記録はまだ紙ベースである。
Ⅱ．サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	複数の機能を活かし在宅生活を支援。多様な医療ニーズに対応するため、職員のスキルアップ(振り返り・研修)を重視する。	ミーティングで利用者さんの変化に柔軟に対応している。	個別にミーティングを行うことができている。 業務ミーティングも定着している。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	退院時は複数の職員でカンファレンスに参加し連携する。 緊急時は、かかりつけ医との連携し往診含めて対応。	退院時含め主治医へも ICT ツールを使用し利用者の状態を報告・共有し、情報連携を密にしている。	医療機関に関しての共有は大きく進んでいるので継続する。 拡大する。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	年6回地域への情報発信・学習会を実施している。全職員への周知と参加体制を構築する。	地域向け学習会で栄養、体操などの情報を発信した。 サロン活動の発信も行い活発な活動が進んでいる。	年間の学習も達成している。 サロン活動も月6回が定着し参加者も増加しているので継続する。
Ⅲ．結果評価 (評価項目 42～44)		サービス提供による利用者・家族の安心感を職員が実感。今後、より多くの人々に安心を届けられるよう、更なるサービスの向上を目指す。	学習会、会議を通じて家族等から寄せられた意見を、職員間で共有し、サービスの質向上に繋げています。	サービスの利用により利用者様・ご家族様が安心されている声が聞けている。 全体の満足度がさらに上がるように取り組みを進めていく。

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目		評価結果	改善計画
Ⅰ．事業運営の評価 (評価項目 1～10)		個人情報に配慮しつつ情報共有の工夫をお願いします。継続的な取り組みに期待しています。	・職員の育成計画作成・研修機会を増やす。 ・運営推進会議の意見をサービスに反映する仕組みを作る。 ・ハラスメント対応策を明確化し、安全管理体制を強化する。 ・緊急時対応の具体的な計画を策定し、訓練を実施する。
Ⅱ．サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	ぜひ続けてください。	・サービス内容、在宅療養の留意点、重度化時の対応を説明する。 ・医療処置・介護方法を丁寧に指導し、家族の理解と協力を促す。 ・終末期ケア方針を事前に共有する。 ・状況に応じた訪問介護を実施し、家族の負担軽減を目指す。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	ぜひ続けてください。	・運営推進会議に家族参加を促す。 ・利用者の課題を共有し、多職種が連携できるようにする。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	サロン活動は参加者が増え、参加者からも好評です。学習会も防犯や介護の備えに繋がる支援として、良い効果が出ていると思います。	・運営推進会議の記録を公開し、情報発信を強化する。 ・地域の課題を抽出し、改善策を提案する。 ・家族・近隣住民への介護力向上支援を実施。
Ⅲ．結果評価 (評価項目 42～44)		在宅療養継続、在宅看取りができそうで安心しています。多職種連携と家族との密なコミュニケーションが心強いです。	・計画目標の共有と進捗確認を徹底し、達成率向上を目指す。 ・利用者・家族との対話を重視し、不安解消に努める。 ・看取りに対する不安を軽減するため、医療機関との連携を強化する。 ・看取り事例の共有と振り返りを行い、ケアの質を向上させる。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します